

アラブ諸国におけるビジネスの基本について (第6回) 服装規定、冠婚葬祭マナー、お見舞い



(株)湾岸経済研究所 代表取締役社長 田中 保春

●服装規定

「服装は知性を表す」と言われるほど、アラブでは服装がとても大切です。清潔感のある服装を心がけましょう。ビジネスパーソンの服装規定について、以下に留意点を挙げます。

1. 基本はスーツです。TPO次第ではジャケットやジャケットなしでも大丈夫ですが、相手の役職や年齢などをよく考え、年配の方ならスーツが無難です。
2. ネクタイ：初対面では着用した方が好ましいと思いますが、よく知る相手ならノーネクタイでも構わないでしょう。ネクタイの色は、基本は地味系です。保守的な年配のアラブ人は、一般的に原色系の派手な柄は好みません。
3. ワイシャツ：ホワイトが基本ですが、薄い青色なら問題ないでしょう。上品なストライプも問題ありません。半袖よりも長袖が基本です。
4. カフスポタン：金色の派手なものは避けた方が無難です。イスラームでは、男性が金や絹を身につけることは禁止という宗教的な教えがあるからです。
5. 女性の服装：基本はスーツです。スカートよりパンツですが、スカートなら足首まで隠れるロングスカートが無難かもしれません。サウジアラビアでは外国人女性のアバーヤ（ヒジャブ）は着用義務がなくなりましたが、肩や膝を露出しない適切な服装着用を規定しています。
6. 盲点となる靴の汚れ：砂漠が多いアラブ諸国では、外を歩くと自然と靴は細かい砂まみれになります。ビジネスミーティングには自動車でビルの正門か駐車場に乗り入れるため、外の砂地を歩くことは少ないと思います。それでも、知らず知らずのうちに靴（特に黒色のビジネスシューズ）はうっすらと砂ぼこりが付着します。ミーティングに出発する前には、チェックしておいた方が無難です。

最後になりましたが、アラブ人が着用する伝統的な衣装（サウジアラビアでは「トーブ」ですが、国や地域によって呼び方が異なります）については、非現地人（外国人）がビジネスミーティングで着用することはないので、このシリーズでは省略させていただきます。

●冠婚葬祭

冠婚葬祭と言っても、アラブには人生の筋目になるお祝い「冠」はなく、先祖を祀り一族の繁栄を願う「祭」もないので、「婚」と「葬」だけが対象となります。また、結婚式といったセレモニーはなく（例外はあります）、結婚を祝う披露宴（男女別）となります。サウジアラビアやUAE等では今も男女別々ですが、レバノンやシリアなどでは男女一緒です。

葬儀の礼拝はモスクで行われることが一般的ですが、モスクが近くにない場合は自宅などで行われることがあります。故人の自宅では、埋葬後に故人を偲ぶための親族や友人・知人の追悼の集まりがありますが、そこを訪問することは非常に稀だと思います。

筆者は25年近い現地生活を通して結婚披露宴は50回以上招待されましたが、ほとんどの結婚披露宴は、リヤドで、そのほかはジェッダ、アルコバール、メディーナなどでした。いちど、イラク人が経営する会社のイラク人幹部とトルコ人女性との結婚式&披露宴に招待されイスタンブールへ行きましたが、その時は、花婿と花嫁は一緒、出席者も男女一緒で、未明まで飲み食い、踊って騒ぐパーティーでした。披露宴は地域や相手の家柄などで大きく異なります。

●結婚披露宴に招待された時の留意点

1. お祝い品は持参する必要はありません。服装の基本は、スーツです。
2. 開始時刻が午後8時になっていても、礼拝時間の関係もあり、最初の1時間はガラガラです。出席者がようやく揃うのは、開始時刻から大体1時間半が過ぎてからです。開始時刻（目途にすぎません）から30分前後遅れても、全く失礼になりません。
3. 会場に到着したら、まずは挨拶です。花婿や花嫁に辿り着くまで、親族への挨拶が延々と続きます。挨拶する列までは、案内人が誘導します。「私は花婿の・・・の友人です。」と言えば良いでしょう。とにかく挨拶する親族の人数が多いので、「おめでとうございます。」を意味するアラビア語の「マブルーク！」と簡単に伝えるのが良いと思います。あまり長々と挨拶すると、右横の人（次の人）が待っているのが実践的です。
4. 挨拶が終わったら、アラビック・コーヒーやデザートを食べながら、「おしゃべりタイム」が延々と続きます。顔馴染みを見かけたら、直ぐに挨拶に行きましょう。こういう場で、顔を売っておくことはネットワーク構築にとって大事です。名刺を多めに持参することを忘れずに！
5. 食事を待つ間、会場では伝統的な踊りや太鼓演奏などが行われるケースもあります。写真/動画撮影は問題ありません。なお、女性限定の披露宴会場では食事後も朝方近くまで生バンドが入り、踊ったりするそうですが、写真/動画撮影は原則禁止です。
6. 待ち疲れた頃になると、アラブのお香が運び込まれます。これが食事の合図です。ジャケットでお香を

筆者紹介

1955年京都市生まれ、大阪外国語大学（現、大阪大学）卒、リバプール大学MBA、ミシガン大学院Execコース修了。IH、仏銀ソシエテ・ジェネラルのちにソシエテ・ジェネラル証券（湾岸産油国カバレッジ）を経て、サウジアラビア民間財閥のファミリーオフィス・アドバイザー、中東協力センター非常勤アドバイザー、サウジアラビア総合投資院=SAGIA（現、投資省）リヤド本部にて総裁アドバイザー&ジャパンデスク、みずほサウジアラビア株式会社代表取締役会長、サウジ地場企業（製造業）の社外取締役や監査委員会会長、リヤドのプリンス・スルタン大学ビジネススクール理事、サウジアラビアの非営利団体の顧問などに従事、2022年に株式会社湾岸経済研究所を設立

包み込むようにしましょう。それが終わると、食事会場に移動し、食事です。

7. VIP は特別テーブルでウェイターによって食事が給仕されますが、通常はbuffetスタイルです。VIP として招待された場合は、案内人が事前に伝えます。buffetは直ぐに混みあいますので、お行儀が悪いとか気にせず早めに料理を取りに行った方が良いでしょう。出遅れると、自分が食べたいものが無くなっているかもしれません。
8. 食事タイムは30分前後、せいぜい1時間弱です。デザートを食べたら、離席して帰路につきます。招待してくれた人に簡単なお礼とお祝いの言葉を忘れずに。

●葬儀マナー

1. イスラームの葬儀は、礼拝→埋葬（土葬）→追悼の集いの順番です。ムスリムが亡くなった場合、24時間以内に可能な限り早く埋葬しなければなりません。午前中の死去は当日中に埋葬、午後の死去は翌日埋葬となります。礼拝にはムスリム以外は参加できず、非ムスリムは、礼拝後に棺が埋葬地に運ばれるのをモスクから少し離れて見ることになります。
2. 埋葬後故人の家で追悼の集いが行われますが、自宅の場合は、基本的には非ムスリムでも参加できます。その場合の服装はダークスーツか喪服となります。一般的には3日間続きます。
3. アラビア語のお悔みの言葉がありますが、英語でお悔みを伝えても良いでしょう。なお、追悼の場で嘆き泣き叫ぶことは良くない行為として禁止されています。

●お見舞い

蛇足ながら、病院でのお見舞いについて少し説明します。筆者は、リヤドの大病院で1カ月弱入院した経験があります。

お見舞品：日本の病院と異なり、アラブの病院では病室への花束持ち込みは大概可能です。ただし、病院によっては持ち込み不可のところもありますので、事前にチェックした方が無難です。また、花を贈ることが好まれない一部の地域もあると聞いたことがあります。大都市の大病院内には、お見舞用の花束を売っているお店がありますので、そこで買うのが便利です。

伝統的なアラブ文化では、デザートやナッツ類、また「クナーファ」や「バクラヴァ」といったアラブ伝統のスイーツが一杯つまったお見舞品も一般的です。デザートやスイーツは早く食べた方が良いでしょうので、筆者はお見舞いに来ていただいた方々に振る舞いました。



お見舞品として多いのは、両手で持つのが精一杯の山 アラブの伝統スイーツ、クナーファ（出典：Al-Fanar）

盛りのチョコレートです。市内のチョコレート専門店に行くと、お見舞い用やお祝い用のチョコレートは、いくらでも売っています。大きな豪華なケースにのったチョコレートは100個近く、中にはそれを軽く超えるものもあります。入院期間が長くなると、病室はチョコレートだらけになります。筆者は退院時に、担当してくれたフィリピン人の看護師にお礼として渡しました。なお、お見舞品にはカードがついていますので、カードには自分の名前とメッセージを書きます。

筆者が入院中、お見舞い用のチョコレートが一杯詰まった両手で持つぐらいの大きなケース、大きなぬいぐるみ、花束などが病室に入りきらず、廊下にまで溢れ出していた病室がありました。おそらく、相当に身分の高い方のお妃か娘さんだったような記憶があります。

*本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。